

日中「小鳥前生譚」の比較研究

立石 大展

はじめに

わが国では、昔から日々の営みの中で鳥の声に耳を傾け、その声に意味を求めてきた。また、目にした鳥の姿や習性の由来を説くために、その鳥の前身に思いを馳せてきた。人々の生活の中で、わが国的小鳥前生譚は生まれ、多くの人に身近な、そして共感できる鳥の話として親しまれ伝わってきた。

わが国で語られる鳥は、時鳥や百舌、郭公、雲雀、鳩等々、その他幾種類もある。ただ、総じて人の生活圏の内や、その近いところにいて、体の大きくない鳥である。そして、なぜ現在のような鳥になつたかという由来譚では、何らかの自責や後悔の念に駆られた結果であると説いたり、深く悲しんだ結果であると説いたり、何かの罰を受けた結果であると説くことが多い。小鳥前生譚の話は様々あるが、全体的に悲しい色調の話である。隣国の中国に目を向けても、小鳥前生譚は存在する。やはり

わが国と同じように生活に密着して語られており、その内容も悲しく、哀愁を帯びている。そこで、主に中国の小鳥前生譚の鳥になる由来を整理することで、日中両国の共通点、相違点を考察していく。なお本稿では、人が鳥に変わる点を以て小鳥前生譚と見なし、その基準を満たす話を分析していくこととする。

一 小鳥前生譚の背景としての諺

わが国で小鳥前生譚が語られる場合、それは、農村の生活の実感に支えられているという。理由は、小鳥前生譚に登場する鳥が、おおむね春から夏にかけて鳴く鳥で占められ、田植えや麦の成熟などと結びつけられているからである。⁽¹⁾

農業との関係で鳥の声に耳を傾けるのは、中国も同様である。両国的小鳥前生譚を述べる前に、話の背景となる民俗の点から、両国の共通性を確認してみたい。ここでは鳥に対する関心が端的に表れる諺に注目して、見ていくことにする。

わが国で、鳥の諺は数多く、特に季節や天候との関わりを中心に関心がもたれている。一例として『農業に関する金言俚諺集』（谷本亀次郎 養鶏園藝社 一九一九年）から、その諺を引用してみる。

「百舌鳥の早く鳴く年は霜早し」「鳩空中に舞う時は天気晴れ」「鳩の雌を呼ぶは晴れ」「鳩の雨中に鳴くは雨霽るるなり」「朝鳶鳴けば其日に雨あり、夕に啼くは晴れ」

「鶲高きに上り鳴く時は晴れ」「雲雀高く上がるは晴天」

ここに挙げたのは、わが国に伝わる鳥に関する諺の内のわずかな例に過ぎない。しかし、これらを見るにつけても、我々は丁寧から鳥の鳴き声や行動に注意を払い、気候の変化を探ろうとしていたことが分かる。

中国においても同様のことが言える。中国の諺については、今回『中国諺語集成』の江蘇卷⁽²⁾、上海卷⁽³⁾、陝西卷⁽⁴⁾と他に『中国諺語誌⁽⁵⁾』、『支那農業氣象俚諺集⁽⁶⁾』にあたり、一五三の諺を調べた。通覧するとはつきりと確認できるが、鳥の行動を季節の到来の目安にする場合と、天候変化の目安にする場合とに分かれることである。

鳥を季節の到来の目安にする場合、圧倒的に多く諺に登場する鳥は燕、郭公、雁の渡り鳥である。次にその例を鳥ごとに纏めて挙げていく（『中国諺語集成』より挙げ、省名が、そのまま収録されている巻に対応）。

（江蘇省）「燕は清明に来る」

「燕は笑いながら来て、雁は泣きながら去る」「雁が来ると雪が舞い、雁が去ると春が来る」

（上海市）「雁が北へ飛ぶと暖かくなる」

また直接、農業の関わりで語られる諺も多い。

（江蘇省）「燕が穀雨より前に来ると、低地は綿を収穫せず、穀雨の後になると低地は大豆を植える」

「燕が来たらニンニクを抜いて、雁が来たら綿花の茎をほじる」

「郭公が鳴くと、急け妻が驚く」

「郭公郭公、麦刈り田植え」

次に、鳥の行動を天候変化の目安にする場合について見ていく。天候の変化で最も多いのは、雨の予兆を語る場合である。

次いで、大風が吹く予兆と続く。こちらにも、燕、郭公、雁の渡り鳥は登場するが、鳥、鶲、鳩、雀など四季を通して身近にいる鳥の姿が目立ち始める。

（江蘇省）「燕が天にのぼり、蛇が道に止まり、牛が前蹄をなめると、雨が来る」

（陝西省）「燕が低く飛べば雨」

（上海市）「郭公が鳴くと雨が降る」

（江蘇省）「雁が『人』の字に並ぶと、風が吹く」

（上海市）「雁が南へ飛べば風、北へ飛べば雨」

（陝西省）「雁が朝鳴くと曇り、夜鳴くと晴れ、夜半に鳴くと夜明け前に雨」

(上海市) 「鳥が鳴くと、大風が起きる」

(陝西省) 「鳥が巣に帰つてカーと鳴けば近日の天気は良く、声もなく帰ると周囲百華里は晴れない」

(江蘇省) 「鶴が行水すると、雨の予兆」

(上海市) 「鶴が鳴くと、晴れの知らせ」

(陝西省) 「鶴が鳴くと、天気が崩れる」

(江蘇省) 「シラコバトが鳴くと雨、雀が鳴くと雨上がる」

(上海市) 「シラコバトの声がこだますれば必ず晴れ、こだましないと必ず雨」

(江蘇省) 「雀が行水すれば、風雨が来る」

(上海市) 「雀の鳴き声が物憂げだと、必ず雨が降る」

天候変化を予兆する諺では、その諺の種類も豊富で、登場す

る鳥の種類も多くなる。ただ、およその見当がつけられるのは、鳥の行動の中でも、鳴き声に耳を傾け、天候変化の予兆を探ることが多いということである。

また、中国で鳥と暦の関わりには長い歴史がある。既に『礼記』「月令」に「仲春之月玄鳥至」、「季冬之月鵠始巢」などの記述があり、陰曆二月に燕がやつて来たり、陰曆十二月に鶴が巣作りを始めることが書かれている。当然ながら、その後の地方誌や博物誌にも鳥を季節の目安とする記述は多く、今後はこれを整理する必要がある。

いずれにしろ中国の鳥に関する諺はまだまだ多く、ここに挙げたのは、ほんの一例である。諺に関しては、その内容、地域

的なまとまり、歴史的な広がりなど、機会を改め検証をしていく事項を残したが、本稿では日中両国的小鳥前生譚を支える鳥に対する関心が共通していることを確認して、論を進めることとする。

二　中国の小鳥前生譚に関する研究

中国の小鳥前生譚は現在も伝承されているが、それを理解する際、幾つかの押さえるべき事項がある。前掲の諺についてもその中の一つといえるであろうが、他に大きなものとして、中国の伝統的な鳥に対する観念と、そして鳥の声を用い、寓意、抒情を表した禽言詩が挙げられる。

わが国では、既に柳田國男の指摘にあるように、鳥が靈魂との関係を持つため、小鳥前生譚でも人が鳥に変わると言われている。⁽⁷⁾中国においても、鳥が靈魂との関係を持つことは、自明のこととされている。鉄井慶紀「古代中国に於ける鳥の聖視觀について」(『民族学研究』四一卷二号一九七六)では、靈魂との関わりが説明され、『楚辭』の王逸注や『楚辭後記』『南康記』『神仙通鑑』から人が鳥になる話が挙げられている。

禽言詩については、宋代以降に目立つてくるそれを整理しなければならない。ただ、周作人「關於禽言」(『苦竹雑記』一九三六年)の禽言に関する文章の中には、「禽言は農民より出たものもあるが、文士によるものが大半で、田園詩の雰囲気は多いが、民間

の苦労を反映できているのは少ない」という記述もあり、小鳥前生譚との関わりで考える場合は、注意が必要となる。

中国の小鳥前生譚への言説では、澤田瑞穂『中国の傳承と説話』「動物と伝説」（研文出版一九八八年）において鳥の声の聞きなしの具体例が紹介され、「（鳥の声が）聞くものによつて意味ありげに表現され、またそれを脚色して姑と嫁、繼母と繼子の葛藤などが昔話化して語られる」と指摘されている。そして、

飯倉照平『中國民話集』（岩波書店一九九三年）においても「小鳥前生三話」として話が載せられ、巻末の解説には、中国側の小鳥前生譚に関する言説を調べる手がかりが載せられている。また、繁原央「時鳥と兄弟」の比較説話（比較民俗のために）比較民俗学会（一九〇一年）や「小鳥前生譚」の比較（説話文学会二〇〇二年度二月例会資料）では日本と中国の小鳥前生譚の比較が行われ、加えて中国の文献における小鳥前生譚に關係あるものとして三国時代『華陽國誌』の杜宇が農事に祭られることが注目されている。鳴く時期が自然暦とされたものは、中国では『華陽國誌』にまでさかのぼることができるとして、この民俗が先にあつて説話が生まれていったのではないかと推察し、また、杜宇が死後、子鵠になることがはつきりと語られるのは宋代の『太平寰宇記』まで待たなければならないと指摘されている。

中国側の研究としては苑利「試論鳥的伝説」（民間文艺季刊一九八六年三期）が挙げられ、鳥類伝説の一般的な特徴（鳥の

声の聞きなしや登場する鳥の形態的な特徴）や科学的価値の検証が行われている。

三 日中の小鳥前生譚

わが国の小鳥前生譚の各話についての研究は、すでに先学によつてなされており（管見の論文については本稿末に記載）、また本稿においては紙面の都合上、各話論まで踏み込めない。そこで、中国との比較を行う上で、基準となるよう、わが国の小鳥前生譚を大観してみたい。鳥になる由来を以て分類をすると、およそ次の四つに分類できそうである。「兄弟の葛藤」「親子の葛藤」「繼母（主人）との葛藤」「夫婦の葛藤」。

次に、どの様に分類したのかを示す。なお話の名称は『日本昔話大成』に拠つた。

1、兄弟の葛藤

「時鳥と兄弟」

2、親子の葛藤

「郭公と母子」「水乞鳥」「山鳩不幸」「よしとく鳥」

3、繼母（主人）との葛藤

「馬追鳥」「行々子と草履」「時鳥と繼母」「時鳥と包丁」「時鳥と小鍋」「時鳥と計算」「片脚脚絆」

4、夫婦の葛藤

「夫鳥」「狩人と犬」

実際の伝承では話ごとのバリエーションが豊富で、なかなかに纏めづらくはあるが、鳥になる由来を基準として分類をすると、以上の通り分けられると思う。鳥の声に悲しい物語を想起する時、わが国では身近な人々との葛藤が中心となる。それだけに、小鳥前生譚は多くの人々に共感を持たれ、伝承されてきたのである。

次に中国の小鳥前生譚を分類していく（管見の話については、一覧表を作成し、本稿の最後に提示。また本章末に資料として七話の梗概を提示）。ちなみに中国の小鳥前生譚では、聞きなした鳴き声をそのまま鳥の名前とするが多く、わが国の鳥名との同定が難しい。以前、筆者が福島県耶麻郡で調査をしていた際、話者の方から「この辺りでは、ホーホーと鳴いている鳥がいる」と聞いたことがある。それは何鳥でしょうかと尋ねても、「この辺りでは、みんな『ホーホーデリ』と呼んでいるから、分からぬ」と言われたことがあった。中国でも、その共同体でのみ通用する鳥名があるようで、同定できない場合は中国語での表記を行つた。

さて、中国の小鳥前生譚の中で、人が鳥になるパターンは大まかくは、二つに分けられよう。

まず、悪いことをした報いで鳥となる場合である。一覧表の中に「加害」の項目を設けてあり、丸印をついているのが、これに当たる。「継母が継子を殺そうとして、自分の子を殺してしまい鳥になる」「嫁が盲目の姑に蚯蚓を食べさせた罰を受け

て鳥になる」という具合である。この場合、その鳥は、許された罪を背負った象徴となる。その話を聞く者に、「悪いことをする」と鳥になる」というメッセージを持つことになる。

次に、深い悲しみや辛さ、苦しさから鳥に変わることである。「生活の苦しさから鳥になる」「愛しい人や親を捜して鳥になる」「権力者に迫害されて鳥になる」という具合である。この場合、その鳥は、悲しみや辛さを背負った象徴といえよう。鳥になる者を迫害する者としては、継母、姑、小姑や地主などの権力者が挙げられる。わが国と違うのは、姑、小姑、地主などが登場する点であろう。ただ、姑や地主がほとんど常に迫害する存在であるのに比べて、小姑は話によって、嫁を迫害する存在にもなれば、嫁の強力な味方になることもあります。二面性を備えてい。娘家における小姑の微妙な立場を反映しているようで興味深い。ちなみに、地主などの権力者は小鳥前生譚以外の昔話でも、敵役として多く登場する。現在の中国政府が資産階級を否定した上で成り立ってきたことの影響を指摘する向きもあるうが、いずれにしろ、中国において民衆の生活を圧迫していた存在として強く意識されていたことに間違いはなく、わが国の話との大きな違いとなつてゐる。

また、登場する鳥が季節や農事の暦に関わって語られる場合、多くは、悲しみや辛さから変わった鳥である傾向が見られるようである（鳥と暦の関わりが語られている話には、一覧表の「暦」の欄に丸印をつけた）。鳥が農事などの目安となつて手助けを

してくれる場合、その鳥が、悪いことをした報いにより変わった鳥であるとは考えにくいためであろうか。

ここまで、小鳥前生譚を大きく二つに分けて、その違いを見てきたが、最後に、わが国的小鳥前生譚に対応する形での分類を試みる。およそ「兄弟葛藤」「親子の葛藤」「継母との葛藤」「嫁ぎ先(夫姑・小姑)との葛藤」「地主・金持ち・権力者との葛藤」「農作業・仕事の失敗」の枠の中で、話を整理できるのではなかろうか。

ちなみに各話レベルでの共通性というと、「兄弟葛藤」の「時鳥と兄弟」は話の筋から日中両国の繋がりを窺わせるが、それ以外では、話の筋の共通性は現在のところ、見いだせない。「時鳥と兄弟」の話がなぜ両国で語られるのかは、今後の課題となるが、その他の話は、それぞれ日中両国で生まれ、語られてきたのである。また、中国国内を見ても、全国的に共通して語られる話というのはあまりなく、目立つのは一覧表21～29の継子話「八石豆型」(資料C)と8と38～44の鶏の由来(資料D)である。この内「八石豆型」の話は、他の継子話の広がりとの関係を探らねばならず、分布の広さについては小鳥前生譚の枠の中だけでは考えられない。鶏の由来の話については、中国の北から南まで見られ、内容もかなり固定されている。鶏がどこにでもいて、しかも鶏を呼び寄せる時の声が共通していることなどが、広くこの話が受け入れられた理由であろうが、その伝播経路はこれから当たらねばならない。しかし、いずれにしろ、

これは小鳥前生譚の中では珍しい。全国で共通しているのは、鳥の声を聞いた際、そこに悲しみを汲み取る心の動きと、人が鳥になるという観念である。これを下敷きとして、各地で特徴を持った話が紡ぎ出され、語り継がれてきたといえよう。

注

(1)『日本昔話事典』の「小鳥前生譚」(執筆は大島建彦氏)の項目。(弘文堂一九七七年)

(2)中国民間文学集成江蘇卷編輯委員会編『中国諺語集成江蘇卷』中国ISBN中心一九九八年

(3)中国民間文学集成上海卷編輯委員会編『中国諺語集成上海卷』中国ISBN中心一九九九年

(4)中国民間文学集成陝西卷編輯委員会編『中国諺語集成陝西卷』中国ISBN中心一〇〇〇年

(5)朱介凡編著『中華諺語誌』第七卷・第十卷 台湾商務印書館一九八九年

(6)伊藤斌訳編『支那農業氣象俚諺集』東亞研究資料刊行会一九四三年(原書・国立中山大学理工学院『中国氣象諺語集』国立中山大学出版部一九三三年)

(7)柳田國男『野鳥雜記』「鳥の名と昔話」の水こい鳥の項

(8)わが国的小鳥前生譚に関する管見の論文

南方熊楠『時鳥の伝説』『郷土研究』四卷四号一九一六年
柳田國男『野鳥雜記』甲鳥書林一九四〇年

折口信夫「鳥の声」「婦人の友」二卷一〇号一九四八年

三谷榮一『日本文學の民俗學的研究』「物語る日と文藝の發生」有精堂一九六〇年

福田 晃『昔話の伝播』「鳥獸草木譚の意義—『時鳥と兄弟』をめぐって」弘文堂一九七六年

最上孝敬「鳥類と昔話」「昔話－研究と資料－」一一号

三弥井書店一九八二年
川田順造『聲』「音の共通覓」筑摩書房一九八八年
野村純一『昔話の森』「ほととぎすと兄弟 鳥になつた子どもたちへの鎮魂」大修館書店一九九八年

高橋宣勝「小鳥前生譚と自發変身」「昔話伝説研究」第一六号 昔話伝説研究会一九九一年

徳田和夫「『盛長者の鳥の由来』祭文をめぐつて一小鳥前生譚『雀孝行』の物語草子 付・翻刻」「国語國文論集」第二七号 学習院女子短期大学国語国文学会一九九八年

花部英雄『呪歌と説話』「『喚子鳥』歌と小鳥前生譚」三 弥井書店一九九八年

花部英雄「小鍋焼きの地獄－昔話『時鳥と小鍋』の伝承 風景－」「昔話伝説研究」第一九号 昔話伝説研究会一九九九年

山本則之「時鳥の鳴き行くをあふぎて－鳥の昔話の伝承 執機・時鳥譚を中心にして」『昔話伝説研究』第一

一二〇号 昔話伝説研究会一〇〇〇年
花部英雄「鳥の昔話と飢饉－『山鳩不幸』を中心に－」「昔話－研究と資料－」二九号 三弥井書店二〇〇〇年

久保華誉「日本昔話における鳥の役割－『繼子と鳥』とグリムの『ねずの木の話』の比較を通して－」

『國學院大學大學院紀要－文学研究科－』第三輯一〇〇一年

資料A「兄弟葛藤」（一覽表4番）

親のいない兄弟がいた。兄は十二歳、弟は九歳。とても貧しかつたが兄は弟を大事に可愛がり、山についてハマビシを掘つて食べていた。兄は実の部分を弟にやり、自分は硬い皮と茎の部分を食べていた。しかし隣の悪い巫女が、兄弟の家の財産を巻き上げようとする。巫女は弟に、ハマビシは皮と茎がうまく、兄はいつも独り占めしているから、山に行つた時、穴に落としてしまえと言う。弟は騙され、その通りにしてしまう。兄は死に、弟がハマビシの皮と茎を食べてみると、まずく、騙されたことに気づく。弟は泣き、また誰も弟にハマビシを掘つてくれないので、まもなく死んだ。弟は黒くて小さい鳥になり、「哥喂哥喂（お兄さん、お兄さん）」と鳴いて飛ぶ。旧暦の三月のこと、今もこの時期、この鳴き声を聞く。

（海南省）

資料B 「親子の葛藤」（一覧表18番）

むかし、ある夫婦が五人の子を産んだ。家は貧しかつた。ある年、干ばつやイナゴなど様々な天災が起き、家には少しの食料も無くなつた。子供達はお腹がすいたと騒ぐが、何の方法も思い浮かばない。母親は、自分の乳房を切ると、鍋で煮て子供達に食べさせた。鍋の肉を喜んで食べ尽くした子供達は、母親を捜したが、そこには阿套五勒古鳥がいるだけで「没套没套由、沒套没套由、過冷没套由（生きていけない、生きていけない、本当に生きていけない）」と鳴くと飛んでしまつた。二・三月になると山から、阿套五勒古鳥が「没套没套由、沒套没套由、過冷没套由」と鳴くのが聞こえる。

（雲南省）

資料C 「繼母との葛藤」（一覧表25番）

陽天と陽桂の兄弟がいた。兄は先妻の子、弟は後妻の子だつた。弟の幼名は桂桂陽といつた。後妻は、兄を憎んでいた。ある豆まきの季節に、後妻は兄弟に豆を渡し、芽が出るまで帰つてきてはいけないと言う。兄の豆は、煎つたものであつた。道すがら、弟は兄の豆がいい匂いがするので自分の豆と交換してもらう。豆まきをして、兄の豆は芽を出した。兄は家に帰り、事情を後妻に話す。後妻は、兄をひどく殴り、弟を見つけて帰るように迫る。兄はあちらこちら探すが、弟を見つけられず、死んで鳥になる。毎年農暦三月の豆まきの時期になるとこの鳥

資料D 「嫁ぎ先での葛藤」（一覧表41番）

奚の家に娘が嫁ぐ。ある日の昼、一家は餃子を食べ、餃子が余る。その日の午後、夫の妹の餃子の盗み食いを、嫁は目撃する。夕方、姑が餃子が減つているのに気づき、嫁を罵る。夫の妹はそれを見て、嫁に向かつて「食べていいのなら、私と一緒に天に向かつて誓いをたてる」という。嫁は「餃子を食べたのがもし私なら、私は今日死ぬ」と言い、それを見た夫の妹は自分も誓いをたてざるを得なくなり「餃子を食べたのがもし私なら、私は人でない」と言う。すると、夫の妹は倒れ、姿が見えなくなり、服の中から、まん丸ではなく細長くもないものが現れた。両親は悲しみ、姑がそれを抱いて、二十数日後、それの中から黄色くて、尖つた嘴で、とても細い脚のものが出てきた。舅はそれが鳥のようなので名字の奚と鳥をくつづけて「鶏」と呼ぶようにした。数年後嫁の息子が鶏に餌（米をやるのに鶏飼飼、早く食べな」と言うと、聞いていた姑は怒つて「こんな小さなものでも、おばさんなんだから姑姑（おばさん）と呼びなさい」と言う。以来鶏を呼ぶときは「姑姑姑」と声を掛けるようになる。またもともと、鶏になつた娘は卵を生んだ後、恥じて鳴かなかつたが、ある日飼い葉桶の下で卵を生んでいる時、娘の兄が飼い葉をかき混ぜにきた。兄は鶏が偉そうに動かないのを見て、棒で打つた。以来、鶏は卵を生むと、打たれたことを思い出し「哥

の鳴き声は一層痛ましくなり「桂桂陽、桂一桂一陽ー」と鳴く。（四川省）

哥打、哥哥打（兄が打つ、兄が打つ）と鳴くようになった。

（浙江省）

資料E 「嫁ぎ先との葛藤」（一覧表59番）

父母のいない娘が嫁入りする。姑は娘に父母がいないので馬鹿にして、いじめる。夫が出稼ぎに行っている時に、姑は家事をすべて嫁にやらせ、食事も満足に与えず、こき使う。生きていても仕方がないと思つた娘は石臼に頭をぶつけ自殺をする。帰つてきた夫は、妻が死んだことに衝撃を受け、麦の収穫もせずに、妻の墓の前でうなだれる。鳥に生まれ変わつた妻はそれを見て「哥哥快去割、哥哥快去割（あなた、早く麦刈りに行って）と鳴く。

（四川省）

資料F 「地主・金持ち・権力者との葛藤」（一覧表111番）

麦鵲という娘が、結婚をしようとしていた。しかし、麦家の主人が、麦鵲を自分の息子、馬尻児の嫁にしようとする。十日以内に三石の麦を小作料として出せと命じ、出せなければ麦鵲を連れて行き、結婚相手を役人に渡すと迫る。この当時は今と麦の熟する時期が違いまだ麦は青かつた。麦鵲は、毎日麦畑に行つて「麦児快黄、麦児快黄（麦、早く黄色くなれ）」と叫んでいたが、数日後死んでしまう。麦鵲は麦児鳥になり、「麦児快黄、麦児快黄」と鳴く。麦鵲の親も娘を想いまもなく死ぬ。その日は立夏で、この時から麦は立夏に熟するようになる。毎年、麦が熟するようになると麦児鳥が飛んできて鳴く。麦家の主人の息子も、麦鵲と結婚できなくて、しゃくで我慢できなく、馬尻児鳥になる。鳥になつても、麦児鳥を追いかけている。

（四川省）

資料G 「農作業・仕事の失敗」（一覧表136番）

六盤山一帯には、麦の熟す六月に催收鳥が来て、「辺黄辺割（熟したら刈れ）」と鳴き続け、血を吐いても鳴き止まず、声は悲哀を感じさせる。以前、麓の村には、働き者の老人と息子がいた。ある年の麦は良く実り、息子は父に麦の刈り入れを促すが、父は全部の麦が熟すまで待とうといふ。四日後、刈り入れを始めた途端、大粒の雹が降ってきて、麦が全滅してしまう。父は、倒れ鳥になり、毎年麦の熟す季節になると、「熟したら刈れ」と懸命に鳴く。

（寧夏回族自治区）

麦鵲という娘が、結婚をしようとしていた。しかし、麦家の主人が、麦鵲を自分の息子、馬尻児の嫁にしようとする。十日以内に三石の麦を小作料として出せと命じ、出せなければ麦鵲を連れて行き、結婚相手を役人に渡すと迫る。この当時は今と麦の熟する時期が違いまだ麦は青かつた。麦鵲は、毎日麦畑に行つて「麦児快黄、麦児快黄（麦、早く黄色くなれ）」と叫んでいたが、数日後死んでしまう。麦鵲は麦児鳥になり、「麦児快黄、麦児快黄」と鳴く。麦鵲の親も娘を想いまもなく死ぬ。その日は立夏で、この時から麦は立夏に熟するようになる。毎

				鳥の名	鳥になる者	加害	暦	鳴き声	ただし（）は鳴き声以外	鳥になる原因	伝承
52 白臉鶲	53 救吐鳥	54 布谷鳥	55 找姑鳥	56 找姑鳥	57 鳥	○	○	夫よ、罰しないで	盲目的な姑を虐待したのが、夫にばれて。	？	海南
57 呕吐鳩	66 オウム	65 オウム	64 黎鶴	63 我想郎君鳥	62 恨狐鳥	61 比牠鳥	59 布谷鳥	○	助けてよ、助けてよ、助けてよ	小姑は兄嫁が仕事をしやすいよう桑の木に変わる。その小姑を捜して。	寧夏
67 呕吐鳩	嫁	女の子	小姑	嫁	嫁	○	○	○	小姑を捜す、小姑を捜す	小姑が兄嫁の為に山神に願いをし、叶つた後さらわれる。その小姑を捜して。	江蘇
68 オウム	おばさん助けて	おばさん助けて	おばさん助けて	おばさん助けて	おばさん助けて	○	○	○	○	○	○
69 布団を開け、はつきりする、私の母は悪口で人を傷つける	おばさん助けて	おばさん助けて	おばさん助けて	おばさん助けて	おばさん助けて	○	○	○	○	○	○
70 山西	山西	山西	山西	山西	山西	○	○	○	○	○	○

鳥の名	鳥になる者	加害	暦	鳴き声	ただし（）	は鳴き声以外	鳥になる原因								
88 哭刀鳥	悪い兄嫁	○		金の刀			欲ばりな兄の死を兄嫁が悲しんで。（AT729金の斧）								
89 哭刀鳥	悪い兄嫁			金の刀			欲ばりな兄の死を兄嫁が悲しんで。（AT729金の斧）								
90 阿喂鳥	老人	嫁					姫に指を切り落とされて。								
91 公公鳥	老人														
92 姑姑救	女子子														
地主・金持ち・権力者との葛藤															
93 オシドリ	夫と嫁			妻、妻、私の可愛い妻			夫は徴兵され、戦死して、妻は夫の骨を抱いて入水して。	黒竜江							
94 棒槌鳥	若者と娘			「汪剛さん」「麗麗さん」			結婚を迫る地主に追われ、死んで。（棒槌は高麗人参）	遼寧							
95 ハイタカ	国王	○					国王が獵師の作った飛天衣を取り上げて着て。	吉林							
96 脱了衣睡鳥	女子子						借金の形の女の子が、金持ちにいじめられ、殺されて。	吉林							
97 光棍兒雀	若者			独り身は、とても辛い			地主に騙され、酷使されて。（光棍兒は男の独身者）	吉林							
98 打更鳥	老人			何時だ、何時だ			地主に殺されて（打更は夜回りのこと）	吉林							
99 打更雀	老人			何時だ、何時だ			主人に殺されて（打更は夜回りのこと）	吉林							
100 庄哥鳥	娘			庄哥、庄哥（恋人の名）			地主への借金返済のため人参掘りに行つて倒れた恋人を捜して。	吉林							
101 車小伙子雀				どうどう（牛をおう言葉）			雨の中、主人のために医者を呼びに行かされ、牛を連れていって事故死して。	吉林							
102 嘰嘸鬼子雀	仲人の女			いつ乾く、いつ乾く、いつ乾く			騙して嫁入りさせようとした娘に入水されて。	吉林							
103 オシドリ	若者・娘						騙されて嫁入りさせられる娘が入水、若者も後追い。	?							
104 ハト	二人の若者	母、母		王剛さん、王剛さん、待つて			始皇帝に出仕を強要された若者が死後、母を想つて。	北京							
105 王剛鳥	娘						娘へ横恋慕した金持ちに、恋人を殺されて。	北京							
106 黒老鶴	布谷鳥	娘（鳥女房）	地主	布谷（夫の名）			横恋慕した皇帝に連れ去られた夫を捜して。	山西							
107 黒老鶴				わーわー（泣き声）			使用人が仙人から貰った空飛ぶ服を地主が取り上げて着て。	山西							
108 爹爹苦鳥				雇用人辛い、お父さん辛い			父が地主に殺されて。	陝西							

			鳥の名	鳥になる者	加害	暦	鳴き声 ただし（ ）は鳴き声以外	鳥になる原因	伝承
146 タカ	145 釣魚鳥	145 呂洞賓の妻	128 雇工鳥	鳥になる者	作男	○	雇用人、雇用人、一年に一個の仕事、作男を殺す。	地主に一年の稼ぎをざまかされて。笛と歌を皇帝の前で披露したが、娘を狙う皇帝に若者は殺され、娘は自殺する。	ヤオ族
			129 画眉鳥	鳥になる者	作男	○	お父さん、お父さん、薄い粥、薄い粥	仕事時、お粥を運んでいた父が、地主のいじめで死んで。お父さん、お父さん、薄い粥、薄い粥	スイ族
			130 稀粥粥鳥	男の子	若者・娘	○	お父さん、お父さん、薄い粥、薄い粥	自分を助けた若者を父（役人）が殺し、娘は入水する。	？
			131 オシドリ	若者・娘	農業もしくは仕事の失敗	○	仕事を急ぐ	他人の田植えを手伝い、自分が間に合わなくて。	？
			132 赶工鳥	農民	農民	○	仕事をほうつておく	兄弟の田植えを手伝い、自分が間に合わなくて。	浙江
			133 擗工鳥	農民(末っ子)	農民	○	仕事をほうつておく	他人の田植えを手伝い、自分が間に合わなくて。	浙江
			134 擗工鳥	若者	農民	○	仕事をほうつておく	他人の田植えを手伝い、自分が間に合わなくて。	浙江
			135 各工鳥	農民(末っ子)	農民	○	それぞれの仕事、苦しい	農業をさぼって、収穫できず。	浙江
			136 催取鳥	老人	老人	○	熟したら刈れ	資料G	
			137 催取鳥	老夫婦	老人	○	今熟した、今刈れ	老夫婦の一人の息子が刈り入れを怠けて麦が大雨で全滅して。	寧夏
			138 ホトトギス	兄弟	兄弟	○	麦が熟したところから刈れ、スープを飲まずに、子供をつないで	収穫を怠けて、麦が全滅して。	寧夏
			139 車老板兒鳥	黒牛	黒牛	○	どうどう、車輪ガラガラ	(車老板兒はベテラン車夫) 道路の補修中の事故死で。	甘肅
			140 叫驢子雀	男	男	○	ろば、ろば、ろば	男に富をもたらしてくれた驢馬が逃げ、それを追つて。(疊りの日に酒を飲むという名の鳥) 高麗人參取りの老人が酔い潰れて死んで。	吉林
			141 陰天打酒喝	老人	老人	○	(雨が止み、晴れる時に出てくる)	右記に同じ。	吉林
			142 雀の一種	老人	老人	○	(この鳥が出ると、雨が止み晴れる)	右記に同じ。	吉林
			143 輸急狗子雀	男	男	○	激了、激了、激了	鳥の轡りで魚が捕れず、波にさらわれて。	吉林
			144 輸急狗子雀	男	男	○	激了、激了、激了	呂洞賓の妻が仙人になつた後、家に残した鷄を惜しみ。	寧夏

147	シラコバト	女性	趙団助けて（趙団は死後ともに仏にならうと誓った屠殺人）	生前、米と泥を混ぜた罰で。	浙江
149	フクロウ	鳥	周玖、あなた放して（周玖は娘の名）	結婚費用のため懸命に働いていた若者が山で事故死。	浙江
150	咕鈎鳥	県令	周玖、あなた放して（周玖は娘の名）	賄賂を取った罰で。	四川
151	オオサイチヨウ	若者・娘	○	咕鈎、咕鈎（咕鈎鳥の鳴き声）	広西
152	芦花鶲	夫と嫁	○	すまない、すまない	夫が狩りにてた際、妻を餓死させてしまって。
153	郷姑鳥	田舎娘	○	○	夫が狩りにてた際、妻を餓死させてしまって。
154	ホトトギス	隣の嫁	○	○	夫が狩りにてた際、妻を餓死させてしまって。
155	棒槌鳥	義兄弟	○	○	夫が狩りにてた際、妻を餓死させてしまって。

※注 一覧表の「布谷鳥」はほとんどの場合、「カツコウ」を指すが、

「布谷鳥」はほとんどの場合、「カツコウ」を指すが、「ホトトギス」と区別が難しい場合もあり、中国語表記とした。

出典資料（資料名の下の番号が、一覧表の番号と対応）

『中国民間故事集成・廣西卷』（中国民間文学集成廣西卷編輯委員会 中国ISBN中心 20001年）

1、2、29、43、85、86、121
『苗族民間故事選』（中国民間文艺研究会貴州分会主編 上海文芸出版社 1981年）

3
『中国民間故事集成・海南卷』（中国民間文学集成海南卷編輯委員会 中国ISBN中心 2002年）

4、10、12、13、36、37、44、52、88、125、126、127
『中国民間故事集成・甘肅卷』（中国民間文学集成甘肃卷編輯委員会 中国ISBN中心 2001年）

『鳥的伝説』（雪夫・裴明海編 広西人民出版社 1986年）

5、9、11、14、16、20、23、28、32、46、47、53、56、58、61、62、78、79、80、84、87、89、90、101、102、103、114、115、116、122、123、124、125、131、135、140、142、144、145、148、150、151、153、154、155

『中国民間故事集成・山西卷』（中国民間文学集成山西卷編輯委員会 中国ISBN中心 1999年）

6、67、107、152

『中国民間故事集成・海南卷』（中国民間文学集成海南卷編輯委員会 中国ISBN中心 2002年）

『中国民間故事集成・甘肅卷』（中国民間文学集成甘肃卷編輯委員会 中国ISBN中心 2001年）

- 7、57、110、138
 『中国民間故事集成・浙江卷』(中国民間文学集成浙江卷編輯委員会中国ISBN中心 1997年)
- 8、15、24、41、48、49、75、76、77、113、132、133、134、147
 『中国民間故事集成・福建卷』(中国民間文学集成福建卷編輯委員会中国ISBN中心 1998年)
- 17、27、51、117、118、119、120
 『納西族民間故事選』(中共麗江地宣伝部編 上海文芸出版社 1981年)
- 18
 『パイン伝説集』(小林保祥著、松沢貞子編 風響社 1998年)
- 19
 『中国民間故事集成・陝西卷』(中国民間文学集成陝西卷編輯委員会中国ISBN中心 1996年)
- 21、45、69、70、71、72、108、109
 『中国民間故事集成・河南卷』(中国民間文学集成河南卷編輯委員会中国ISBN中心 2001年)
- 22、39、40、68
 『成都民間文学集成』(成都民間文学集成編委会 四川人民出版社 1991年)
- 25、35、42、59、81、82、111、149
 『中国民間故事集成・四川卷』(中国民間文学集成四川卷編輯委員会中国ISBN中心 1998年)
- 26、33、34、60、83、112
 7、57、110、138
 『中国民間故事集成・江蘇卷』(中国民間文学集成江蘇卷編輯委員会中国ISBN中心 1998年)
- 30、50、55
 『中国民間故事集成・寧夏卷』(中国民間文学集成寧夏卷編輯委員会中国ISBN中心 1999年)
- 31、54、73、136、137、146
 『中国民間故事集成・吉林卷』(中国民間文学集成吉林卷編輯委員会中国ISBN中心 1992年)
- 38、63、96、97、98、139、141、143
 『中国民間故事集成・北京卷』(中国民間文学集成北京卷編輯委員会中国ISBN中心 1998年)
- 64、65、66、104、105、106
 『中国民間伝説集』(鄭翠生編 上海華通書局 1933年)
- 74
 『中国民間故事集成・遼寧卷』(中国民間文学集成遼寧卷編輯委員会中国ISBN中心 1994年)
- 94、95
 付記
- 本稿は、第二十七回日本口承文藝學會大会における研究発表をまとめたものです。発表後、飯倉照平先生より中国の鳥に対する信仰や聞きなしなど、多くのご教示と資料をいただきました。厚く御礼申し上げます。
- (たていし・のぶあつ／國學院大學大學院博士課程後期)